

各部会 活動報告

制度施策部会について

令和7年度の制度施策部会では、改めてセンターの役割について考える機会としたいと考えております。

具体的な取り組みとしては、県内16センターの活動を把握する為の【実態調査】、及び【地域意見交換会】へスタッフを派遣し他圏域間での交流を考えており、そこから見られた課題や展望をまとめ、行政団体等と協議する足掛かりとしていきたいと考えています。

制度施策部会長 八木原 直彦

研修部会より

研修部会では今年度「ナカポツの在り方を学ぶ」をテーマに研修を企画しております。限られた社会資源を活用し連携を取る事はナカポツ業務では欠かせません。地域連携が優れている地域の視察研修から学んだ事を16センターと共有し学びを深めたいと思います。また、特例子会社連絡会の合同研修会では「障害者雇用のこれまで」「就労支援のこれまで」をベースに幹事役員によるシンポジウムも企画されています。今後もナカポツ職員のスキルアップを目指して様々なテーマで研修を企画していきたいです！

研修部会長 申 美娟

広報部会について

広報部会は、広報誌の作成・ホームページの維持管理・パンフレットの管理が主な活動になりますが、ここ数年間でこれらのリニューアルを進めてきました。今年度はより皆さんへ関心をより持ってもらえるよう、部会員の皆さんと活動を進めていこうと思っています。

定例会前に集まって協議をしたり、ホームページの投稿についても皆で勉強をしたりして、協議会の活発な活動をよりタイムリーに発信できるように、取り組んでいこうと思います。

広報部会長 金木 隆裕

特別部会について

特別部会は協議会の中で最後に設立された部会となります。「社会情勢や新たな制度、その他課題となるものの協議、情報集約を行い協議会内外へ発信をしていく」部会です。

特別部会発足時より障害者雇用のあり方について考える中で「障害者雇用ビジネス」について調査、セミナー（他部会と共同開催）を行ってきました。様々な雇用形態が生まれている昨今の状況下において、「よくわからない仕組み」の中で障害者雇用が進まないように正確な情報発信ができる部会であるよう頑張っていきたいと思っています。

特別部会長 鶴岡 裕太

就職するなら明朗塾

藤井さんのつぶやき

こんにちは！就職するなら明朗塾の藤井です。

気が付けば、9月…。年度の折り返しになってきましたね。皆さんはいかがお過ごしですか？

今年は異例の暑さにより、よくも悪くも様々な影響がありましたね。農作物の種類によっては不作だけではなく、豊作や例年に比べて甘くなったものもありますよね！

光明会でも様々な作物を育てていますが、なかでもブドウが甘く育ち、地域の皆様などに楽しんでいただけた。今年のブドウは終わってしまいましたが、スパークリングワインを醸造しましたので、来春に皆様にお届けができると嬉しいです。



編集後記

毎年の様に聞きますが、今年も！「観測史上最も暑かった夏」だった様で、9月に入っても真夏のような日が続いてました。それでも朝晩の心地よく感じる様になった風や、稲刈りが終わった多くの田んぼを見る様になり、季節の移り変わりを感じるようになりました。

待ちに待った秋は今年も短いのかな…？と思いますが、暑さを理由に出来なかった〇〇があれば、過ごしやすくなったこれからの季節で、行動に移すように皆さんもませんか？(笑)

広報部会長 金木 隆裕

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
事務局 TEL 0436-36-7762 FAX 0436-26-7090

〒292-0067 市原市今富 1110-1 障害者就業・生活支援センター／ふる里学舎地域生活支援センター
E-mail: fg.shien@yukeikai.jp URL: http://www.chiba-centernw.com/



千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会

千葉県障害者就業・生活支援センター 連絡協議会だより

広報紙

第 30 号

令和 7 年 9 月 30 日 発行

【発行元】

千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会 会長 藤尾 健二

「就労選択支援事業」のスタートに向け、改めて考えるナカポツの役割

令和7年度も早くも後半を迎えました。連日の猛暑が続く中、不安定な国際情勢やトランプ関税による経済の不透明感など、日本だけでなく世界が大きく揺れ動いています。また、コメ価格の高騰や自然災害といった日々の暮らしに直結する問題にも直面しています。

このような厳しい環境下でも、私たちが支援する方々の「働く・暮らす」日々は続いています。だからこそ、私たち支援者がこの状況にひるむことなく、仕事に真摯に向き合うことが今、試されているのかもしれません。

今年度、当協議会はこれまで以上に関係機関との連携強化に取り組んでいます。昨年12月に始まった「今後の障害者雇用促進法のあり方に関する研究会」では、障害者雇用の「雇用の質」について議論を重ねています。障害者雇用率のさらなる引き上げに対し、企業だけでなく支援機関からも懸念の声が聞かれるようになりました。その背景には、これまで真剣に障害者雇用に取り組んできた企業が、疲弊している様子を間近で見ているという現状があります。このままでは、代行ビジネスに象徴されるような「雇用の質」を軽視した障害者雇用の拡大につながるのではないかと危惧しています。

そして、障害福祉分野では、令和7年10月にいよいよ「就労選択支援事業」の一部がスタートします。この事業には賛否両論があり、厚生労働省の担当者でさえ「運用しながら創り上げていく」と発言するほど不確定要素が多い船出となります。全国からも不安や困惑の声が聞かれ、事業を実施する自治体の「取り組み姿勢」が問われています。

全国のモデル事業や先進的な取り組み地域からは「中立・公正」というキーワードを重視した報告がなされており、この事業を成功させる上で重要な要素となるでしょう。そして、まさにこの「中立・公正」を求められる取り組みにおいて、私たちナカポツセンターの役割が、これまで以上に重要になってくるのではないのでしょうか。

国の方針に従って事業を進める行政、福祉サービスとして最大限に活用しようとする事業所、このサービスに疑問を感じている相談支援機関、そして何よりもこのサービスを利用するご本人。これらの関係者が同じ方向を向くためには、その土台作りが必要です。様々な利害関係から離れ、ご本人の「こうなりたい」という思いを追求できるナカポツセンターが、その中心的な役割を担えと考えます。

私たちはこれまでも「基幹型」としての役割を追求し、ネットワークを築き上げてきました。「就労選択支援事業」の開始は、このネットワーク力を存分に発揮する絶好の機会と言えるでしょう。

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会は、今後もナカポツセンターおよび地域の支援力向上に努めてまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 会長 藤尾 健二

第一回連絡調整会議について

6月20日（金）の午後、今年度の第一回連絡調整会議をプラザ菜の花にて開催しました。これは、年に2回、ナカボツと各関係機関が一堂に会し、近況や実態の共有、意見交換や見解のすり合わせを図る事を目的とした集まりで、当日は49名がご参加くださいました。

今回は、当協議会の藤尾会長と、あかね園の松尾センター長による対談が目玉企画でした。障害者雇用や就労支援の「過去・現在・未来」をテーマに、「雇用現場にルーツ×就労支援の走り」という両名が、常に本人中心の視点で実体験とそれに基づく思いや願いを語り、その掛け合いが非常に痛快でした。

ナカボツという立場に留まらず、目の前の一人に真摯に向き合う者として、頷きつつも新鮮な感覚を得られた会でした。

連絡協議会副会長 中 真宏



特別支援学校進路の先生方向けセミナーに参加して

私は、これまで毎年このセミナーに参加させていただいております。回を重ねるごとに学びが深まっており、学校・企業・支援機関のそれぞれの立場から事例を伺えることは、日々の実践を振り返り新たな視点を得る大きなきっかけとなっています。今年度は8月22日（金）に開催され、今回も、卒業後の支援を考える貴重な場となり、大変有意義な時間となりました。

～講師の方々からのお話から～

●学校教員から

市川大野高等学園の尾形教諭からは、家庭と本人の意向が異なる中でも信頼関係を築き、安定した就労につなげた事例をご紹介いただきました。進路指導に携わる教員として、共感できる点が多くありました。

●企業の担当者から

SBフレームワークスの佐嶋様からは、実習を経て採用に至る仕組みや、タブレットによる作業の見える化、交流行事を取り入れた定着支援について伺いました。障害のある人を「仲間」として迎える姿勢が強く印象に残りました。

●支援機関から

千葉障害者就業支援キャリアセンターの向日様からは、ナカボツセンターの役割や支援事例をご紹介いただきました。離職のケースも踏まえつつ、本人・家庭・企業を巻き込む継続的支援の重要性を改めて実感しました。

今回のセミナーを通じ、学校・企業・支援機関が早期から連携し、それぞれの役割を果たすことが、卒業生の安定した職業生活につながると強く感じました。在学中の指導においても、卒業後を見据えた支援の仕組みづくりを意識して取り組むことの大切さを忘れず、この学びを教育現場で生かしていきたいと思ひます。

千葉県立横の実特別支援学校 就労支援コーディネーター 大場 健



センターの日常 ～ピア宮敷～



当センターが担当する夷隅圏域は、いすみ市・勝浦市・大多喜町・御宿町の2市2町で、人口約63000人。風光明媚で、観光などでも多くの方が訪れる地域です。

さて、障害者就業・生活支援センターピア宮敷は、県内で一番最後に仲間入りしたセンターで、委託を受けて、早10年。地域の会議に出かけると、「就労はピアさんだよ！」とお声をいただき日々の我々のお仕事につながっていることが有難く感じます。

私たちセンターが大切にしていることは、「相談しやすいセンター」「丁寧な支援」「対象の方が主役」であると考えています。

一人でも多くの登録者の方に活躍していただきたい、そのために、アセスメントの工夫としてセンター独自の職業検査や職場実習のご案内をしています。また、企業様との関係も大切に、障害者雇用についての理解を深められるよう丁寧な説明を常に意識しています。

また、私たちは地域資源のひとつとして相談対応や自立支援協議会に参画しています。「できることは何でも取り組む！」気持ちを心に置き、無いなりに工夫をしながら地域での連携を心がけています。地域柄、就業支援はもちろんのこと生活支援の比重がわりと多いと感じております。「小さな地域だからこそやることは多い！そしてお互いつながることが大切な地域」であると感じています。

一つのケースもみんなで考えるセンター。

弊法人理念である「より良い人生を送りたいという願いを実現するために」を胸に地域の中で頼れる相談所として、これからも信頼していただけるセンター、架け橋としてのセンターとして精進していきたいと思ひます。

ピア宮敷 隈井 明美

職業センターとの意見交換会

6月4日（水）に千葉県障害者職業センターと千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会との意見交換会がおこなわれました。令和7年度第1回ということで自己紹介や情報提供の後、各センターの支援実施状況や職業センターとの連携状況というテーマで、千葉障害者職業センターとナカボツでの意見交換がありました。

地域ごとに分かれて最後に内容の全体共有をしましたが、センターごとの支援や連携の違いや各地域特有の課題、高齢化、生活面での支援の増加等テーマ以外にも幅広い内容での意見交換がされていました。まとめの中で「いろんな所とつながることが大切！」という言葉がありました。エールも職業評価や研修等日頃より千葉障害者職業センターさんと連携をとらせていただいていることが多く、大変心強く感じています。今後もつながりを大切に活動していきたいと思ひました。

エール 池田 美里

労働局との連絡会議に参加して

毎年労働局とナカボツとの連絡会議が開催されますが、今年も16センターの皆さんが参加して実施されました。

例年、労働局からの発信と各センターの圏域の様子についてを報告する流れで進んでいましたが、今年は2つのテーマに沿ってグループワークを5つのグループに分かれて行いました。ナカボツ側では各圏域での具体的な支援の動きの発信や労働局との様々な意見交換もできる場となりました。

中里 金木 隆裕

特例子会社連絡会に参加して

7月25日（金）、千葉市生涯学習センターで開催された特例子会社連絡会に参加しました。法政大学現代福祉学部の眞保智子先生による「障害者雇用をめぐる今日的課題について考える」講演では、障害者雇用率の推移において、大企業が雇用率を牽引している現状や、精神障害者の求職・就職件数の増加について説明がありました。

また、令和8年7月に予定されている法定雇用率の引き上げに向けた企業の対応状況や、職業リハビリテーションに関わる人材の資格制度に関する情報提供もありました。

障害者雇用を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、雇用率の向上に伴うさまざまな課題への対応が求められています。障害者の働く場を支え、より良い支援を行うためには、千葉県内の特例子会社を始め、今後雇用を広げていかなければならない、0人雇用企業、雇用率未達成企業と、障害者就業・生活支援センターとのさらなる連携が不可欠であると強く感じた会でした。

キャリアセンター 向日 宏一

厚労省との意見交換について

6月9日（月）千葉障害者キャリアセンターにて、厚生労働省 障害者雇用対策課・千葉労働局7名、連絡協議会会長 含め協議会員7名と意見交換を行いました。

連絡協議会の活動や千葉県各地域におけるセンターの役割について報告、ナカボツの在り方の変化や連絡協議会があることで共通理解を持つことができ、支援や雇用の在り方について伝えられるといったような、協議会の重要性について話しをすることが出来ました。厚労省の方から今後こういった機会を設けていきたいとお話をいただきました。

連絡協議会副会長 西村 拓士